

## お客様のプロフィール



事業者名  
株式会社Tonkoya Company

事業概要  
居酒屋の経営（県内4店舗）

従業員数  
65名

## 勤怠管理システムの導入が、勤務時間の短縮や休日増にも貢献

## 導入前の問題・課題

勤怠は月末に各店舗のタイムカードを集めて手作業で集計していた。そのため毎月手間がかかり、人件費も月末締のタイミングでしか把握できなかった。

## 選んだ理由

店舗が増え管理の手間が増したこと、また、各店舗間の物理的な距離もあることから勤怠システムを導入した。

## 導入の効果

業務量の削減により働き方改革が実現できた。また、人件費を日単位で把握できるようになり、リアルタイムな営業分析が可能になった。

飲食店を経営しており、宗像市を中心に県内に4店舗を構えています。当社では数年前より、従業員の働き方改革への取組を課題としていました。飲食業は一般的に休みが少ないという認識が定着していて、その意識を変えたいと考えていたのです。

そこでまず目を付けたのが勤怠システムの導入でした。以前は、各店舗の勤怠管理にタイムカードを利用していました。月末になると各店舗のタイムカードを管理部門に集めてきて手作業で集計する必要があり、大きな負担になっていました。また、月末に締めるまでその月の人件費の見込みを把握できないという悩みもありました。

このような背景の中、店舗数が増え作業を効率化する必要性が大きくなったことをきっかけに、3~4年前に勤怠管理システムを導入しました。従業員は出退勤時に店舗に設置したパソコン画面で「出勤」「退勤」の操作をします。データはすぐにシステムに反映されるため、管理部門ではタイムカードから集計する必要がなくなり、作業時間の短縮につながりました。また、勤怠システム

を仕入や営業のシステムと連携させたことにより、毎日の売上と月末の着地予想をリアルタイムに把握できるようになりました。今では店長やマネージャーには、入力作業ではなく営業の分析作業に集中してもらっています。

導入当初は慣れない操作に戸惑いの声もありましたが、管理職の集合研修や店舗研修を行い、今ではすっかり浸透しています。システム導入をきっかけに従業員の意識も変わり、退勤時間が早くなるという副次的な効果もありました。結果として休日も増えましたし、求人広告で年間休日をアピールできることもメリットです。

今後もデジタル化のメリット・デメリットを見極めながら、便利なツールは積極的に活用していきたいです。

専務取締役  
魚住 徹 氏



検討中の方へ  
メッセージ

システム化をきっかけにスタッフの意識にも変化が見られます。  
飲食業界のイメージを刷新する働き方改革が実現できました。